

演奏に  
役立つ

# One Point Lesson

# SAXOPHONE

サクソフォーン

田端直美

たばた・なおみ

## 豊かな表現には…ヴィブラート！

空気がひんやりして気持ちのいい季節になってきましたね！京都の紅葉は今が見ごろ。色づいた山々を眺めながら散歩するとフフ～ン♪と鼻歌が……、そんなときヴィブラートをかけて自分を発見！そう、ヴィブラートは心の動きを表現するのに大切な手段なんですね。（\*^\_^\*）

サックスのヴィブラートは、下あごの圧力を変えてかけます。決して難しくないので、初心者的人はもちろん、「まだ無理だわ～」という人も気軽にかけてみてください。

さあ、さっそくチャレンジよ！

### ■ヴィブラートのかけ方

①まず基本の音（なんでもいいですが、ここではソの音にしましょう）をよい響きで鳴らします。そこから下あごをゆるめて「ワ」と言うときの口で伸ばしてから元へ戻し、今度は下あごをしめて「ウ」と言うときの口で伸ばしてから、また元へ戻します（【譜例1】）。

②ゆるめたとき深い音に、しめたとき輝かしい音になっているか確認。

③慣れたら「ワウワウ」と連続してなめらかにかける（【譜例2】）。

できたかな、意外に簡単でしょ？では以下の注意点に気をつけながら、もう一回やってみましょう。

### ■注意点

①息圧をしっかりかけて！たとえるなら素の音が「肉」で、ヴィブラートは「調味料」なので、あくまでも素の音がしっかり鳴っているように。

②「ワ」のときに音がゆるみすぎて、基本の音程よりはずれすぎないように。

③心電図のようにガクガクかけない！歌うように自然な波で（【図1】）。

### ■練習方法

1つの音で要領が分かったら、スケールを使ってすべての音でかけてみましょう！コ

ントロールしてかけられるよう、メトロノームを使いテンポに乗って練習します。

- ①まずはゆっくりから。♩=60で1拍につき「ワウ」を1つ入れてみる。できたら、1拍に2つ、3つ、4つと「ワウ」を増やしていく。
- ②今度は2拍ノンヴィブラートで素の音がしっかり鳴っているか確認してから、2拍ヴィブラートをかける（【譜例3】）。
- ③素の音がきちんと響いているのを確認できたら、拍頭からヴィブラートをかける。
- ④テンポを♩=60～92と、少しずつ上げる。

### ■応用編

一定のテンポでコントロールしてかかるようになったら、だんだん速くしていったり、遅くしていったりもしてみましょう。フレーズの頂点へ盛り上がりっていくときはヴィブラートを増やしていくとテンションが上がりまし、フレーズをおさめるときはヴィブラートを減らしてゆくと収束感が出ます。

また響きの

上めにかける

と、輝かしく

張りのある感

じが出てソリ

スティックに

なりますし、

響きの真ん中

でかけると、

音質が柔らか

く聴こえるの

で周りとブレ

ンドさせたい

とき役立ちま

す。響きの下

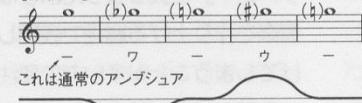
めにかけると

ムーディーに

なりますから、

演歌やムード

【譜例1】



【譜例2】



【譜例3】♩=60～92



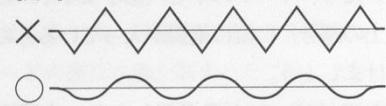
歌謡を演奏するときにぴったりです（【図2】）。いろいろな種類のヴィブラートがかかると、曲がより色彩的になりますからぜひチャレンジしてみてください。

そうそう、ヴィブラートをかけない方がいいときもあるので、かかるようになってしまって年がら年中かけまくらないでね……、なーんて言ってるタバタ、実はヴィブラートがかかるようになったらうれしくって、何にでもかけまくっていた時期がありました。これって、どんな料理にも辛いラー油をかけるようなもの。音楽が単一になっちゃうし、聴いてる人に飽きられちゃうのでやめましょう。

### ■ヴィブラートの波と表情

たくさん演奏を聴けば分かると思ういますが、ヴィブラートの波と表情には【図3】の関係があります。曲で実際にかけてみて、ピッタリくる波を見つけてくださいね～。サックスはもちろん、歌や弦楽器などの演奏も参考に！イメージが大切です。

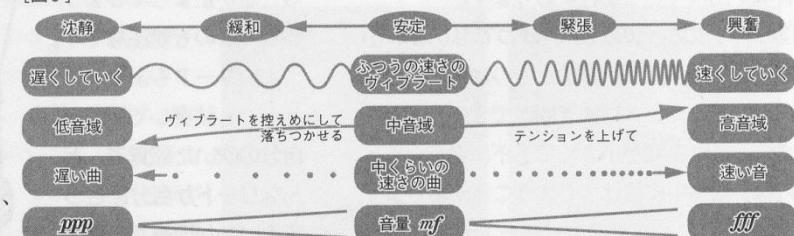
【図1】



【図2】



【図3】



\*低音域・ゆっくりな曲・小さい音量のときは、控えめなヴィブラートがぴったりくるし、高音域・早い曲・大きい音量では速くしっかりとしたヴィブラートの方が映えます。